

井・藤田・黒田・秋山、1999)。また、自己の内面への探求、自己発見、客観的自己の認識等、瞑想治療と呼ばれる治療法と巡礼行動は密接な関連があるように思われる。とりわけ、一週間研修所に宿泊し集中的に内観する集中内観は、日常的な刺激からの遮断状況であるとともに、他者からの妨害や生活上のわずらわしさから解放されているという意味では、保護された状況である。日常生活の場から切り離された、聖なる空間内での巡礼行動と類似した状況である。治療とは一種の自己変容であるから、巡礼行動中の自己過程との類似点や相違点を明らかにする必要がある。

引用文献

- 青木 保 1994 御嶽巡礼 講談社学術文庫
 藤原武弘 1998 自己過程としての巡礼行動の社会心理学的研究 (1) 中国四国心理学会論文集 第31巻99
 藤原武弘 1999a 自己過程としての巡礼行動の社会心理学的研究 (2) 日本心理学会第63回大会論文集 71
 藤原武弘 1999b 自己過程としての巡礼行動の社会心理学的研究 (1) 関西学院大学社会学部紀要 82号 157-168
 Genep, A. V. 1909 *Les rites de passage*. Emile

- Nourry 綾部恒雄・綾部裕子訳 1995 通過儀礼 弘文社
 堀井茂男・藤田英彦・黒田重利・秋山一文 1999 森田療法と内観療法の相補的利用内観研究 第5巻 第1号 39-47
 梶原景昭 1994 解説 青木 保 御嶽巡礼 講談社学術文庫
 前田 卓 1971 巡礼の社会学 ミネルヴァ書房
 宮崎建樹 1997 四国遍路ひとり歩き同行二人 へんろみち保存協力会
 長田攻一・坂田正顕 1998 現代に生きる四国遍路道 - 四国遍路の社会学的研究 図書センター
 芳村超全 1999 新・四国平成義塾'99テーマ「道」徳島新聞 1999年11月21日

付記1：本研究は、1997年度 関西学院大学共同研究費一般A、ならびに、平成9・10年度文部省科学研究費補助金（萌芽的研究 課題番号09871031代表者藤原武弘）の助成によるものである。

付記2：本研究の資料は、藤原武弘指導のもとに作成された次の卒業論文から得ている。記して感謝の意を表す。板倉理恵・川口 愛 「巡礼行動の意識に関する社会心理学的研究」関西学院大学社会学部1997年度卒業論文

A Social Psychological Study of Pilgrimage Behavior as Self Process(2)

ABSTRACT

This study aims to describe and analyze the pilgrim's behavior of Shikoku Henro from the point of view of self process. Interview subjects were 7 priests who had visited the 88 sacred places and temples in Shikoku Island by walking. The results indicated two dimensional factors involved in the process of pilgrimage behavior; motivational input variable i.e.intensity of religious faith and output variable i.e. after effects of pilgrimage behavior.

Key words: pilgrimage behavior, self process, Shikoku Henro